

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	多機能型事業所さんぽみち			
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日		～	2025年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	270	(回答者数)	133
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日		～	2025年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	20
○訪問先施設評価実施期間	2024年4月1日		～	2025年 3月 1日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	120	(回答数)	81
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い支援員を多く配置している。（公認心理師など）	医療的な視点で、対象児のみならず、発達障がいの特性などをお伝えするようにしている。	見立てについての研修を行ったり、発達についての資料などを配布するなど、訪問先の先生や支援員への働きかけでどんな事ができるのか考えていく。
2	専門的な視点で具体的なアドバイスが訪問先の支援者に伝えることができる。保護者に対しても同様にアドバイスをを行っている。	訪問先の先生方に、発達障がいについての理解を促すために、わかりやすく説明することを心がけている。保護者へのフィードバックも丁寧に行っています。	より多くの訪問先の先生や支援員に、理解者になっていただき、地域の療育力を底上げを目指す。訪問に来てもらえて良かった、と思っていけるように支援していきます。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	費用、緊急時の対応、事業所のルール、支援の目的や内容、年間計画など、利用にあたって重要な情報が事前に十分に説明・提供されていないと感じている方がいる。	新規の方には伝わっているが、継続ケースの方には周知が足りない部分もあった。	令和7年4月より連絡アプリを導入し、周知の必要のある情報は、一斉に周知できるようにします。
2	学校等との情報共有や連携が十分でなかったり、意見の相違があったり、保護者が期待する連携が実現できていない状況があった。	年に数回しか訪問できないこともあり、訪問先との関係性がまだ築けていないのは課題。	訪問時だけでなく、可能な限り密な連絡をとるなどの工夫をする。
3	報告形式（書面・メール希望）や連絡のスピード、連絡手段（メール希望）に改善を求める声があり保護者のご希望にお答えできていなかったケースもあった。	訪問後の報告については、支援員の勤務時間内に面談の時間を取れない場合も多いが、電話連絡で丁寧にお伝えしている。	書面やメールで報告がほしいというご希望があるということがわかったので、電話連絡のみでなく、ご希望に合わせた報告の仕方を考えます。